

季節展「空飛ぶ！夜の生きもの」

曾根崎 猛史

季節展「空飛ぶ！夜の生きもの」（開催中5月7日まで）について、オススメポイントと実施までの裏事情をお伝えします。

博物館の展示は常設展示、特別展と企画展がメインとなります。これらは収蔵する標本やレプリカなどを中心に据えた展示です。

これに加え、当館では季節展を年3本開催しています。季節展のコーナーが設けられているのは通路の壁面で、展示形式は写真や解説パネルが中心となります。

博物館で収蔵する資料は、標本やレプリカといった立体物（一次資料）と、映像や文献といった情報（二次資料）です。博物館の特徴は、一次資料を管理するシステムが整うところです。展示も「実物主義」ということとなりますが、自然を広く深く理解するには標本だけでは不十分で、いわゆる「スルメを見てイカがわかるか？」という問題が生じます。一次資料は、二次資料と合わせることで、より理解が深まります。一次・二次資料は車の左右輪のような役割を果たしています。



当館に生息するムササビ

当館では1月頃に、翌年度の展示内容を計画します。昨年の企画段階では今回の季節展はヒナコウモリ・ムササビ・アオバズクを中心に生態写真を紹介しようと相談していました。これらはいずれも当館の周辺で職員によって撮影されたものです。とは言っても正直な所「夜」・「飛ぶ」という2つの難関をクリアした、それも見栄えがする写真を用意できるのか若干の不安を覚えながらの決定でした。

ゲンジボタルの光跡などの写真もありましたが、季節の問題もあり、改めての資料収集が

必要でした。

より魅力的な展示のため、自館以外の資料を借用するというのは、準備の中で大きなウエイトを占めます。今回は当館と研究分野で交流のあるコウモリ研究者で写真家でもある大沢夕志氏にご協力いただきました。大沢氏からご提供いただいた写真は、埼玉県に生息するコウモリ5種。いずれも飛翔中を捉えており見応えがあります。中でも必見は昆虫を捕食するシーンの連続写真です。



スカイツリーをバックに飛翔するアブラコウモリ
撮影：大沢夕志氏

また、年末の観察会で姿を見せた当館周辺に生息するムササビの寝ぼけた姿や、夜鳥（ヨガラス）とも呼ばれるゴイサギも紹介していますのでご覧ください。

（そねざき たけし・担当課長）